

調査・研究成果の展示公開（黒田記念館）（③美06-10-5/5）

黒田記念室は、当研究所の創設に深く関わった帝国美術院長子爵黒田清輝の功績を記念するために設けられた陳列室であり、黒田清輝の油彩画、素描、写生帖等を収蔵公開している。

創立当時、主として黒田家から寄贈されたものは、油彩画125点、素描170点、写生帖等であるが、その後黒田照子夫人、樺山愛輔、田中良氏等からの寄贈が加わった。収蔵品の主なものは、「湖畔」「智・感・情」（以上2作品は、国指定重要文化財）「花野」「赤髪の少女」「もるる日影」「温室花壇」などである。

2001（平成13）年1月より、2階部分の改修工事が行われ、従来の黒田記念室に加え、会議等に使用していた陳列室も展示室に改修、2室がギャラリーとなり、黒田清輝の作品を約50点の展示が可能になった。また、旧美術研究所所長室に美術研究所時代の写真を展示し、パーソナルコンピューターを設置し、来館者がホームページを閲覧するコーナーとして公開した。2002（平成14）年9月からは、土曜日も公開日に加えた。2003（平成15）年度は7月から9月にかけて改修工事を行い、エレベーター等の設置により施設のバリアフリー化をはかった。また同年度10月から記念館1階に黒田清輝作品の絵はがきや図録等、記念館のグッズを委託販売するコーナーを設けた。2008（平成20）年度からは記念館1階の旧研究室で美術研究所時代に使用された家具、資料を展示するとともに、2階の一室で、黒田清輝に関するスライドショーを実施した。

研究成果展示として、黒田家遺族から受贈した黒田清輝関連写真の調査研究の成果の一部として「写真で見る黒田清輝の日常」と題するデジタルコンテンツを作成し、記念館1階にあらたに設置した64インチ大型タッチパネル上で公開した（11月3日公開開始）。

・一般公開（無料）：毎週木・土曜日 午後1時～4時、特別公開：2010（平成22）年11月3日～11月7日、入場者数 18,458人（2010年4月1日～2011年3月10日）

なお、黒田記念室のパンフレット（A4サイズ、三つ折）を作成し、来館者に無料で配布した。

2011年2月24日から3月10日まで、来館者にアンケートを実施した（19日まで実施予定であったが、3月11日に発生した東北地方巨大地震により12日から休館）。来館者917人のうち、156人の回答を得た。回答率は17.0%で、そのうち「満足した」「おおむね満足した」と回答してものは155人（99.4%）、「不満が残った」1人（0.6%）であり、アンケート回答の99.4%が満足感を得たことになる。

・地方共催展：当研究所は、黒田清輝の功績を記念し、あわせて地方文化の振興に資するため、1977（昭和52）年から「近代日本洋画の巨匠 黒田清輝」展を年1回各地で行ってきた。2007（平成19）年4月に独立行政法人文化財研究所と独立行政法人国立博物館は統合し、新たに独立行政法人国立文化財機構が設置され、黒田記念館及び所蔵作品は、東京国立博物館に移管されたが、黒田記念館の運営と共催展の開催は、当研究所の事業として継続している。平成22年度地方共催展は下記のように開催した。

会場：岩手県立美術館、会期：2010（平成22）年7月17日（土）～8月29日（日）

主催：東京国立博物館、東京文化財研究所、岩手県立美術館、黒田清輝展実行委員会

開催日数：28日、入場者：11,942人

陳列点数：油彩・パステル画85点、素描62点、写生帖17冊、書簡4通、日記5冊、参考出品2点、記録写真16点、特別陳列（油彩2点、素描3点）（以上、黒田記念館所蔵作品） 図録：A4版変形、182ページ

会期中の2010（平成22）年8月1日（日）、会場出口において来館者にアンケート調査を実施し、280人から回答を得た（入館者数300人に対して、回収率93.3%）。満足度として「満足」、「おおむね満足」の回答が、100%をしめた。

研究組織

○田中淳、山梨絵美子、塩谷純、綿田稔、皿井舞（以上、企画情報部）